

# 長男なのに親に顔向けできない



電話は、実家に住む高橋の母親からだった。

男性は20代後半で栃木県内の実家を離れ、東京に出た。それから数年、30代半ばの「みだり」だ。

母親を恨み、たまに電話で話す程度で、疎遠になっていった。電話には「お、不承で」う切りはみだりだ。

「仕事が生活厳しくて……。あなたの面倒はみるよ」とがけをなす。「命懸けの面倒はあまり見えていない」。

「ごめん、ショックだった」  
保護の決定に伴う扶養の可否について(照会)  
西日本のある自治体が定めている照会文書。その程度の援助が得られるか、回答を求めている。

## 申請後に母から電話「うちも生活厳しい」

たと振り返る。

### 再就職決まらず

電話がかかってきたききか。男性が生活保護を申請したことがあった。

勤めていた派遣会社を退職した後、なかなか再就職が決まらなかった。

徐々に生活が苦しくなり、手持ちの金を底をついた。とうとう、都心で一人、ホームレス状態になった。

初めて助けた都内のある区の福祉事務所。職員は、生活保護を受けようとした。

「本日は、自分が親孝行して面倒をみてあげなければいけないのに、自分の生活も扶養照会を、生活保護の申

請があった場合に、申請した人の親族が仕送りや支援ができないか、自治体が調べるものだ。

「家族の「本が得られなければ、保護は受けられません」家族全員に連絡をします」男性は長男だ。

「長男なのに生活保護を受けるとして、親に顔向けできない」。そう思ったが、仕事が見つかるあてもない。

生きていくためには生活保護を受けざるを得ない。親に顔を向けられないのに、自分の生活も

まかせられない状況で、親に知られたらどう改めようか。男性はその後、仕事が見つかり、半年ほどで生活保護の要給を止めた。

あの電話があったから、母親はまたたく連絡をとってこなかった。

「2回目照会なし」  
それからおよそ10年が経った2020年の夏、新型コロナウイルスの影響で仕事が減り、再びホームレス状態になった。

「スマホが使えなくなった」と生活困窮者への支援の情報を検索した。その地域で活動

する支援者がいることを知り、生活保護の申請にも同行してほしいことになった。以前は別の区だ。

家族で、また改めて連絡がいくのは耐えられなかった。思い支え者を探して、生活保護申請は適切な理由があれば受け入れてもらえると思った。

申請窓口で支援者からも説明してもらって、今回の申請で、家族は生活保護を申請することになった。

男性は45歳になった。

「2回目照会を避けられたが、理由があれば照会を打たないことを知らない人も多いはず」と話し、以前の「JAN」を「JAN」に換えた。

「1回目も、やはり知られたら嫌な気がした。せめて自分にかかると、親に迷惑をかけるのが自分にとっていいことだ」

### 仕送りの話題 現場は「リスク」

### 緊急時の連絡先 把握の意義も

扶養照会とは、民法上で「扶養義務」がある親等での親族が対象になる。生活保護を申請した人への聞き取りや戸籍調査をもとに親族との関係性を把握しようとする。文書で照会するのが一般的だ。

朝日新聞が、全国の主な自治体について2019年度までの年間の照会の実施を調べたところ、自治体が照会した結果、親族から受給者への仕送りがなくなった例は0.7%にとどまっていた。

関東地方のある市で生活保護を所管する職員によると、扶養照会が仕送りにつながるケースは同市でもほとんどない。それどころ

か、何度の面談を重ねても「扶養義務」がある親等での親族が本人と打ち解けてきたと思っただけで、仕送りについで話を切り出したとたん、心を閉ざしてしまったり、心なからずいる。「親族に本気で考えてもらう機会になる」とは、あるが、照会を恐れるに言え、仕送りを求めるのはリスクではない」と職員は話す。

支援団体の調査でも、「家族に知られるのが嫌だから」といふ理由で生活保護の申請を避ける人は少なくない。

では、扶養照会をやることはできないのか。扶養照会では「精神的な支援」の可否も尋ねる。定

期的な訪問や電話で本人と交流し、困ったときの相談相手になるなどして支援することで、自治体側にとっては緊急時の連絡先を把握する意味もある。「この職員の親族からの精神的な支援が受けられると、ケースワーカーの仕事は本気でしやすくなる」という。

たとえば、受給者に親としている人がおらず、緊急時に連絡できる人もいない場合、入院したときの保証人やなくなったときの遺骨の引き取り手を見つけるのに苦労することはない。

生活保護を受けている約184万世帯のうち、単身世帯が約84% (22年12月)。このため、扶養照会を仕送りが得られなくても、緊急時の連絡先となる親族が見つければ意義は大きいという。

◆生活保護を申請した人の親族に、仕送りでできないかを尋ねる扶養照会。親族に知られたくない人が保護申請をおきらめる「壁」になりかねず、コロナ禍で厚生労働省もより慎重な運用を自治体に求めるなどしているものの、さらなる見直しを訴える声もあります。どうすればいいのか、3回の連載で考えます。